

ホームページの問合せフォームからの質問・回答

No.	ご意見・ご質問		回答
	種別	内容	
1	質問	1、複式学級になったとしても、学力が低下しない証拠を、具体的な方針や先行事例、数値を用いて説明してください。公平な教育が受けられることを証明してください。 2、小規模特認校の先行事例から、メリットとデメリットを確認したうえ、説明してください。数が増えれば良いという問題ではないと思います。特にデメリットに関しては良く確認及び説明をお願いします。 3、万が一、南小学校の在校生の多くの方が来年度、学区外申請を出し、転校を希望された場合のことは想定されていますか？来年度には一人もクラスメイトがいなくなる可能性があることを子供に説明できません。親も不安です。今のうちに、廃校になった場合の想定、スクールバスなどの検討も進めてください。	1. 市の方針として、加配職員を配置し、2人の職員で複式学級を担当する体制を整えることで、きめ細かな指導や支援を可能にし、学力を保障していきたいと考えています。また、市全体で自律的な学習者の育成に力を入れており、教師の支援のもと、児童生徒が自分で学習計画を立てたり、協力して学びを進めたりする授業への転換を図っているところです。複式学級でも、この方針を実践し、学力向上に繋げていきます。 国立教育政策研究所の複式学級の学力への影響の調査・検証結果の報告では、複式学級は学力に大きな影響を与えないことが示されています。また、学年によっては、複式学級の児童生徒の学力がその他の学級の児童生徒を上回ったケースもあり、学級規模が小さく、よりきめ細かい指導を実現できることが学力にプラスの効果を及ぼしたと報告されています。 これらを踏まえ、加配職員の配置による支援の充実や学習スタイルの工夫等を行い、学力の保障に努めます。 2 小規模な学校には、一人ひとりへ寄り添った対応ができること、温かい人間関係の醸成、それぞれが活躍する機会の多さといったメリットがあります。一方、人数が少ないことにより、学びの幅が狭まる可能性があることや、多様な価値観と触れる機会が少ないことなどが課題とされています。谷田部南小学校においては、これまでもそのメリットを伸ばし、課題を解消するために、異学年交流・異学年学習などを推進してきました。 小規模特認校の導入については、学区外からも児童が就学することで、児童数の一定の確保や多様な価値観と接する機会の創出など、小規模の教育のメリットを増大し、デメリットを縮小できるものであると考えています。 3 現状、谷田部南小学校の在校生や就学予定者が学区外申請を行う場合、市の学区外就学に関する許可基準に照らして個別に審査しています。今後、小規模特認校となった際には、特色をもった教育活動を行う観点から、小規模特認校の学区の児童が近隣の学校への就学を希望する場合は柔軟に対応することも検討しています。仮に学区内に在住の多くの方が転校を希望した場合につきましては、学校の今後の在り方について改めて地域の方と協議をする必要があると考えています。現在のところ、谷田部南小学校の統廃合は検討しておりませんが、もし統廃合を検討する際には、スクールバスの運行等についても合わせて検討を行います。

No.	ご意見・ご質問		回答
	種別	内容	
2	質問	前提として、学区の偏りは、小学生の人数のみならず、地域社会の在り方にも影響するものですので、是正をお願いしたいです。 以下は、上記が叶わず、説明会資料のような方向性で進んでいく場合に対する意見や質問です。 A) 令和8年度以降小規模特認校となり、通学区域に関係なく市内のどこからでも就学を認める制度となることについて 1.スクールバスは必須 学区外から100人近くの児童が通っている牛久市立おくの義務教育学校に知り合いがおりますが、牛久市全地域に対するスクールバスにて、児童の送迎を行っているとのこと。学区外通学において、通学手段というのはとても大きなハードルです。教育方針に共感しても、現実的に送迎が難しく断念する、という方を拾うためにもスクールバスについては必ず予算を確保して下さい。スクールバス無くして学区外から児童を募るのはほぼ難しいかと思います。 2.PR方法について 牛久市立おくの義務教育学校においては、英語教育というキャッチーで訴求しやすいPRにて児童が集まったとの捉え方があるそうです。一方で、「イエナプラン」の認知度は未だ低く(肌間隔としてせいぜい1%くらい)、一般的に「小規模」に対するネガティブなイメージがあるのも事実かと思えます。 ただ、刺さる人には刺さるキーワードであることも確かだと思いますので、伝え方、広報の仕方、対象については、是非その道のプロを交えて工夫して頂きたいです。(今回の説明会の資料やプレゼン構成もそうですが、教育関係の部署の方が作る”網羅的、官僚的な説明資料”と、”人に心に刺さる資料”は性質が全く違うと思います。良い悪いではなく、異なる思考の方向性を持った人を頼った方が目的に近づくという意味です) B) 複式学級における学習効果、また非認知能力についての子供たちへの影響について保護者としては、複式学級に対する不安が多いと感じていますが、その逆を示すような事例などがあれば、積極的に情報発信、共有をお願いします。 少し視野を広げてみると、社会に出れば当然、異年齢の集団しか存在しない中で成長していく必要がある訳で、学校だけが異質な空間とも考えられます。また、現代では輩出が難しいような偉人をたくさん生み出した江戸時代の教育において、藩校や寺子屋では学年分けなどほとんどなかったのではないのでしょうか。(現代の受験制度が足かせかもしれません) C) 廃校の基準について 参考までですが、廃校となる人数等の法的な基準があれば教えて下さい。	通学区域については、学校規模や通学距離・通学時間だけでなく、地域の地理的・歴史的成り立ちによる生活圏や結びつきなど、様々な要素を考える必要があります。特に地域の合意形成が非常に重要であると考えているため、みどりの地区の一体性や住民の希望により現在の学区が設定され、地域の意識も定着している状況において、小規模解消を理由とした通学区域の変更を行うことは現実的ではないと考えています。 A1 学区外からの児童の通学方法については、課題の一つとして認識していますので、他自治体の事例等も踏まえて検討していきます。 A2 小規模特認校のPR方法については、いただいた御意見を踏まえ、学校の魅力を広く伝えられる方法を検討していきます。 B 子どもたちにとって、複式学級や小規模集団で学ぶことは、協働性やコミュニケーション能力の育成、個別最適なきめ細かな指導・支援を受けられる等のメリットがあります。この他、好事例についても積極的な情報発信と共有に努めます。 C 廃校を決定する基準はありません。地域の方との協議の中で検討していくこととなります。